



虎高の 今



姉水

発行所
滋賀県長浜市宮部町 2410
滋賀県立虎姫高等学校内
姉水会
〒529-0112
TEL 虎姫 0749-73-3055 内
印刷 株式会社サラト

文武両道

姉水会会長 木下善正



姉水会員の皆様、益々ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、浅井町大依というところに文化スポーツ公園があります。この施設には野球場、陸上競技場、テニスコートや遊園地などが集まったところで、私の散歩コースのひとつでもあります。4月のはじめの日曜日、まだ肌寒い日でしたが、散歩をしていると野球場の方から乾いた球音とともに元気な声がかえってきました。近寄ってみると整然と並んだ自転車に虎姫高校のマーク、グラウンドでは白いユニホーム姿の高校生、むねに虎姫のマークをつけた選手たちが試合をしていました。相手はどうも大津の高校の様です。

スコアは4回で0対0、なかなかの接戦です。交代時の駆け足、連携時の声掛けなど、そのきびきびした姿に魅入っていたひと時でした。最後まで応援していたわけはありませんので結果はどうなったかわかりませんが母校の選手のはつらつとした姿を目にして頼もしく感じ、いつの日か彼らと共にあの甲子園で日東第一を声高らかに歌えたら素晴らしい事だなあと思いつつ球場を後にしました。

文武両道、日々の学習に、部活動にいつも全力で取り組む虎高の生徒諸君の姿が頼もしく思えます。彼らが環境に恵まれた長

浜、宮部の地で学び、すくすく育っていく為に、姉水会として出来る限りの応援をしていかなければならないと改めて思った1日でした。

姉水会員皆様の尚一層のご支援、ご指導をお願いし、合わせてご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

平成26年度「姉水会」総会のご案内

| | | |
|-----|---------------|------------------------|
| 期 日 | 平成26年8月2日(土) | |
| 日 程 | 午後1:00~1:30 | 理事会 |
| | 1:30~2:30 | 総会 |
| | 3:00~4:00 | 講演会 |
| | 4:30~ | 懇親会 |
| 場 所 | 母校大会議室(第3棟2階) | |
| 講演会 | 講師 | 京都地方裁判所裁判官 浅見宣義氏(高30回) |
| | 演題 | 「裁判官から見た事件の変化と司法の変化」 |
| 懇親会 | 魚作楼 | (TEL 0749-73-3031) |
| | 会費 | 5,000円 |

※ ご参加いただける方は、7月下旬までに姉水会事務局へご連絡下さい。
総会あるいは講演会のみでの参加でも結構です。
姉水会事務局 TEL 0749-73-3055
FAX 0749-73-2967

ご挨拶

校長 武友建史



姉水会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。皆様には平素より母校と生徒のために暖かいご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、大正九年の創立以来、「質実剛健」の校訓の下、「文武両道」に励む学校生活を送って本校を巣立った卒業生の数が、本年三月卒業の高校六十六回生を以て二万九千人となり、二万人を超えました。また四月には高校六十九回生二百四十人が入学し、久しぶりに六学級となりました。もし次年度以降も六学級規模が続けば、平成三十二年(二〇二〇年)の本校百周年時には卒業生、在校生合わせて二万二千人を数えることが予測され、より活力のある学校になっていくでしょう、教職員一同努力してまいりたいと思います。

姉水会からは今年度増学級となった教室にも新しい電子黒板を購入していただき、誠にありがとうございます。本校の特色ある教育活動の大事なツールとして一層活用させていただきます。生徒の学力向上に努力してまいります。また、PTAのご尽力によつて教室の空調設備設置が進んでおり、この夏から生徒の学習環境が改善される予定です。このことにつきまして姉水会からご支援をいただき、重ねて御礼申し上げます。

さて、私は高校第二十五回生ですが、先日同期の友人たちと食事を共にする機会がありました。卒業して四十年余りが過ぎ、もう還暦の輪となつてそれぞれのキャリアに一区切りつける時期となつていますが、すぐに高校時代に戻つたかのような気持ちで語らう楽しい時間を過ごすことができました。「朋友信あり」と言いますが、四十年間のそれぞれの時間の積み重ねを超えて、お互いに気軽に話したり協力したりできる関係の背景には、単に高校時代の個人の「絆」だけではない、姉水会員としての「縁」を大切にしている気持ちがあるのだと感じています。

また、虎高の校長として様々な機会に姉水会員の皆様とお話しする時、「昭和〇年の卒業です」というより「高校〇回生です」という方がお互いの時代や年齢を実感しやすいように思いますが、そこにある姉水会員としての大切な気持ちとして、「長幼の序」を蔑ろにしない心を、これからの高校生にも育んでいかなければならないと思つています。それは無意識の表現として話し方や立ち居振る舞いの中に表れるものですが、先輩が後輩の世代を育むために必要な「カベ」あるいは目標として立ち続けていることを後輩が感じ、それを乗り越えようとする力を重ねながら抱く畏敬の念の表れのようなものだと考えます。

今年の二月、図書館内に姉水会員ご自身が著述・出版された書籍や会員の方に関する評伝等を収める「姉水文庫」を開架しました。在校生がそれらを通して諸先輩の業績や足跡を知ること、そして自らの人生を切り拓いていく意欲や意志を強めることを願っています。現在、六人の方からご寄贈いただいています。この後、百周年までに百人以上の会員の皆様に係る書籍が寄贈、収蔵されることを目標に取り組んでいます。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。もし会員の方やそのご家族の方等でご寄贈いただける書籍があれば、本校までご連絡をお願いします。

今、時代の変化の中で学校を取り巻く状況は順風満帆という訳ではありませんが、過去と比較して現状を嘆いたり、今できないことや理由を数えたりするよりも、「質実剛健」の精神、「文武両道」の実践を継承・発展させるためにできる工夫に知恵を注ぐことが大事だと思つています。

何事にも全力で夢中になつて取り組む生徒の気概は、部活動への高い加入率とともに、囲碁将棋部や卓球部の全国大会出場、ソフトテニス部の全県優勝、多くの部の近畿大会出場、ベスト8入りなどの実績に結実しています。学習面でも文科省指定の「スーパーサイエンスハイスクール」事業が三年目を迎えて、生徒に探究力、表現力、協働力、主体的な態度、科学的な態度を育む教育を深化させるとともに、今年度は県教育委員会から「国際バカロレア」の導入に向けた調査研究指定校の指定を受け、グローバル化の時代に応じた進路選択や実力養成等に係る研究を進めてまいりたいと考えています。

これからも本校が湖北に冠たる進学校としての校風を大切に、「独立自尊」「方円自在」の生き方、実践力を身につけた生徒を育成していただけるよう、教職員一丸となつて努力する所存です。皆様には今後とも母校に對しまして、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年度 姉水会役員(敬称略)

| 役職 | 氏名 | 卒回 |
|-----|-------|-----|
| 会長 | 木下 善正 | 高14 |
| 副会長 | 笹原那智子 | 高15 |
| | 関谷 松男 | 高20 |
| | 沢田 昌宏 | 高28 |
| | 長谷川隆男 | 高3 |
| 顧問 | 前川 一郎 | 高7 |
| | 伊藤 正明 | 高20 |
| | 山中 隆 | 高25 |
| | 武友 建史 | 高25 |
| | 榎尾 昇 | 高28 |
| | 本城 善男 | 高18 |
| 監事 | 鈴木富美代 | 高28 |
| | 瀧邊 勲 | 高2 |
| | 米田 喜幸 | 高11 |
| | 西田 吉昭 | 高15 |
| | 草野 正勝 | 高14 |
| | 脇坂 博 | 高14 |
| | 大橋香代子 | 高18 |
| | 清水 敏行 | 高18 |
| | 清水 実 | 高20 |
| | 篠原 新衛 | 高21 |
| | 北田 康隆 | 高23 |
| | 坂井 久泰 | 高26 |
| | 河崎 仁美 | 高30 |
| | 清水 金幸 | 高31 |
| | 高部宇一郎 | 高36 |
| | 宮島 正典 | 高37 |
| | 馬場 隼州 | 高42 |
| | 川田 昌史 | 高48 |

(東京姉水会事務局長)
川田 昌史

(大阪姉水会事務局長)
川田 昌史

高五回卒業生傘寿を寿ぐ

平成25年10月8日、我々の同窓会を、長浜ロイヤルホテルにて開催致しました。当日は、台風25号の影響を心配致しましたが、幸いにも太平洋に転じ、無事当日を迎える事が出来、幹事一同安堵した所です。今回の会を催すに当り、以前はホテル等、屋内ばかりでしたが、今回は母なる湖「琵琶湖」でミシガンか



ピアノカ、船上での会を目論んで居りましたが、交渉段階で人数の件が浮上し、止むなく、この計画はボツと致しました。フロローク

今世界的なメロディー「花は咲く」で入場です。東は横浜、西は神戸、又地元より44名の入場です。出席率は33・5%で前回より5ポイント下り、年令を感じた所ですが、先ず先ずと言った所です。さて今回の標題は「傘寿を寿ぐ」そして校歌作詞者「巖谷小波」を特集した事です。傘寿を迎えたとする時、各家庭でのお祝いは元より、同窓生が一堂に会して、寿ぐ事は、同窓会ならではの事で、年令の節目を迎えた事に、感謝と喜びで一杯です。今一つは校歌を取り上げた事です。今迄は、合唱するのみで、作詞者について、語り、取り上げた事はなく、後



ればせながら、会のテーマに乗せ、我々出席者に「ほこり」を倍増させる事でした。会の代表小野忠人君が、関係の深い水口に赴いて執筆してくれました。それは各書物からの引用ではなく、独自の視点からの名文と名解説で、司会者が皆さんの書架の片隅でなく、真ん中に保存して下さいと、語りかけました。氏の作詞の県下中学校歌は母校のみで、小学校は水口を中心に多少ある中、今一度「日東第一」を噛みしめて見ましょう。続いて物語者への追悼に移ります。鎮魂歌として、「二二・ロツツ」のトランペット「惜別の歌」で詩情豊かに追悼。会場内はトランペットの悲しみに充ちた音色に、鬼籍のクラスメートに想いを馳せた一刻でした。以上一連のセレモニーを記しましたが、話題の中心は健康問題で、80の坂を、いかに乗り切り、前進出来るか、又老化防止は「艇下で帽子を被る」等歌酒後も出る盛況で、笑顔一杯の会場内でした。

エヒローク

今回は「巖谷小波」をテーマにした事により氏と詞への理解が深まり、校歌斉唱の時は、柴田貞子君のタクトの基へ、次から次へとステージにかけ上がり、今迄にないフィナーレを迎えました。歓喜と感動の大合唱は、同窓会の極みであります。そして、長生きへの夢、又今回開催出来た、この喜びを実感し、次回へとつなげたいと思います。以上最後に母校の発展を、お祈り致します。

ナイレを迎えました。歓喜と感動の大合唱は、同窓会の極みであります。そして、長生きへの夢、又今回開催出来た、この喜びを実感し、次回へとつなげたいと思います。以上最後に母校の発展を、お祈り致します。

フレイフレイ 虎高
フレイフレイ 姉水会

記 中村寿夫
本件の企画運営は、旧高月町、湖北町、びわ町の10名が担当致しました。

高二十一回同窓会報告

一月四日(土)午後四時より、北ビワコホテル「グライツィエ」にて、二〇〇三年以来十一年ぶりに高二十一回同窓会を開催しました。

ご出席頂いた弓削・松島・中村(千佐美)・村田・山岡の恩師の先生方を含め参加者八十一名にてホテル前で記念撮影。その後開宴に当たり、物語者の黙禱、弓削先生のご発声による乾杯と続き、歓談の時間になると、ご馳走もそこそこに、虎高生時代にタイムスリップして和気藹々とした語らいの輪があちこちにてできました。

その後、恩師の先生方のご挨拶、幹事代表の挨拶、母校の近況報告、関東地区の同窓会の状況、女性代表および地元代表よりの報告と進み、時間の経つのも忘れて旧交を温めました。

最後に「日東第一」をみんなで唄を組んで熱唱し、五年後の再会を誓ってお開きとなりました。因みに今回は虎高卒業五十周年記念同窓会です。今回ご出席いただけなかった方も、次回は是非お会いできますように。



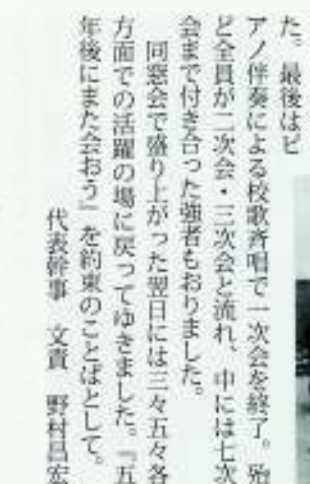
高三十一回同窓会報告

平成二十六年一月三日、ホテルグライツィエにて同窓会を開催しました。前回より五年置きに会を催し、今回は恩師の河崎彌了先生、北川真造先生、高橋一郎先生、中村正勝先生、松島正隆先生にご臨席を賜り、総勢二〇三名の盛大な同窓会を催す事が出来ました。

五十歳を越え社会的に責任ある立場となり、欠席せざるを得ない人が多いなか、一〇〇名を超える参加を募れた事は幹事班一同嬉しい限りでした。

同窓会では幹事が持ち寄った虎高生活三年間の選りすぐりの写真のスライドショーにして十分間上映後、歓談し旧交を深めました。最後はピアノ伴奏による校歌斉唱で一次会を終了。殆ど全員が二次会・三次会と流れ、中には七次会まで付き合った強者もおりました。

同窓会で盛り上がった翌日には三々五々各方面での活躍の場に戻ってゆきました。「五年後にまた会おう」を約束の事として。



代表幹事 文責 野村昌宏

平成25年度姉水会総会記念講演

「教育における個のインタレストと

全体のインタレスト

「二つのインタレストの乖離が生み出す学力低下」

京都工芸繊維大学教授 三木定雄氏 (高20回)

◎学力低下とは

この頃、学力低下が起こっているということが言われています。これが言われ出したのは、二〇〇〇年ちよつと前ぐらいだと思えます。教育の議論というのは医療の議論とよく似ていて、一つの個体で2度同じ実験をすることができない。これはどうしようもない。我々の工学系の世界ですと2回実験ができます。学生に傳そうなことを言つて、そんなことを言つて先生あなたも一度やってみ、と言われて、その実験を僕ができれば僕はダメやということになりますね。そうすると、あまり威張れない。教育界では、一人の人間がダメになつたら、なぜダメになつたかというのには決まらないわけです。実験的には誰が決めているか、権威です。オーソリテイが決めるしかないわけです。すると、何が起こっているかと言いますと、我田引水の議論が起こつてくる。続いて、受験産業の跳梁、ビジネス的評論家の跋扈というのが起こる。では、本当に学力低下が起こっているのかということとを調べてみますと、PISAとかインターナショナルがやっています。日本は非常に成績が悪いということ、そんなことはない。全く大丈夫です。ただ、極東のいくつかの国ががんばっているから、相対的にちよつと落ちたということであつて、なにも悲観することはないんです。だから、学力低下というのは何かという分析が大事なんです。

◎学力低下の本音

この学力低下はいくつかのキーワードで分析される。一番先に提案されたのは分数ができない大学生。こういう本が出たんです。これは日本の数学会の先生方が出したんです。これはセンセーショナルな受けを狙つた本です。分数を含んだ数式をしくじつたという現象をもつて、分数ができない大学生がいるという人も居るわけです。この時は「ゆとり教育」が、やり玉に挙がる。ゆとり教育をや



玉に挙げたのは二つある。一つは官僚大嫌いなグループがある。もう一つは何でもお金に結びつけようという集団が日本にはある。このゆとり教育がいかんのだといったのは、この二つの勢力が醜態に手をした結果だといつていい。同じ船に乗っていますが、夢は全く違う。それらの時期以前から私の感じる学力低下は起こっているんです。だから「ゆとり教育」で学力低下が起こつたというのは私は嘘だと思つています。教育格差、これがまたくせ者なんです。一体何を持つて教育格差というのか。次に学習意欲。これは結果論でありまして、原因を考えると有効なキーワードではない。私はそのように思つていま

す。いずれにしてもこのような分析は、学力というのは国語と数学と英語の足し算の力をもつて学力という、そういう考えから一歩も出ていない。要するに学力というのは、座学ペーパー試験である、こういう考えから一歩も出ていない。

その教育論争はどのような具合になつてきたか。まず、東大に行くような人間を育てたら五重丸や、という考え方が徹底的に日本では続いています。その典型が、ある塾の経営者がいて、学校なんかやらんでもええと、修学旅行行つて暇があつたら、そんな時間を惜しんでやれば、世界チャンピオンになるんやという考え方の人なんです。高校時代をまともに過ごさないとすよ、詰詰にしてすよ、勉強ばっかりさせよと、絶対おかし

いですよ。日本の教育界では、能力には差はない。一生懸命勉強したら、僕でもカールルイスでも同じように走れるという風に教えるのが日本の小中の教育界です。生まれつきに差はあるよといったらそれはタブーで袋だたきにあつてしまうわけです。しかし、私立の中高一貫校は何をしたらいいか。こんなことをいうんです。公立高校は低学力の子どもを教育する。エリート教育は私学が担うという文藝論が平気でまかり通りました。中高一貫校へ受からすための、また塾というのがあつて、

それがビクビジネスチャンスといつて、いやらしい顔をし始めるのです。この教育論争のその1、その2を通じて学力は一貫して東大が受かるような力をもつて、学力というそこから一歩も出ない。それ以外の定義はなされていらないという状態でありまして。私は、工学部ですから会社の現場とか人事の方とか非常によく付き合います。実社会の中で必要とされている人は誰か。よい学校出ていてても、さつぱり役に立たんやつや、常識や知識もまあ曖昧で、使いようのないやつがいっぱいおる。どないなつとるねん。これが現場の学力低下論争の本音なんです。

◎個のインタレスト、全体のインタレスト

エデュケーションというのはそもそもラテン語、心と体に働きかけて対象者の知識を増やしたり、技能を身につけさせたり、人間性を養つたりしつ、その人間が持つ能力を導きだし、望ましい状態にすること。その望ましい状態にするというのは、実はそれは個としての望ましい状態というのと、全体としての望ましい状態というのが当然あるわけです。昔、一人ひとりが入っているソサイアティーが小さいときにはこれは全体と一致したわけです。ところが、時代が進むにつれて時代が複雑化するにつれてどんどん変わっていきます。背景を見ますと、全体の一人として生存権を保障されて、生存の保障が耐えられないのが個としての望ましい状態。これがなくなつたら、人間社会では個は生きていけないわけです。個のインタレストというのは、その全体の一人として、生存権を保障され生存の糧を与えられる、これが個としての望ましい状態です。これがなくなつたら、人間社会では、個は生きていけないわけです。

次に、全体のインタレストは何かと言いますと、これは個のインタレストを足し算しますと、それが全体を維持していく、発展させたり全体を再生産していく、そういう力になり得るといことが、全体から見た望ましい状態なんです。そういうものを作り出すために、価値の伝達とか知識・技能の伝達をやつ

ている、これが教育なんです。
最近、学力が低くなってきている、すなわち個々での不具合、全体と個の不具合に、実は現場を引っ張っていかねばならない社長さん方がいららしていらつしやる、というのが学力低下の本質であると私は考えています。

帝国主義の時代に全体の価値というものは何であつたかという、殖産興業と富国強兵です。鉄砲の性能とか大砲の性能とか、荷車の性能とかそんなものが直接的に、戦争の勝敗に強烈に結びついてくる時代になった。そうすると、自然科学抜きでは議論できない。例えば、量子力学という近代物理がありますが、それはすばらしい大砲を作ろうという努力から生まれてくる。ここで、自然科学重視で、公教育が芽生える。戦争に勝つるためにどうしたらいいのか、「国民全部を物理と化学ばかり勉強したらいいんや」というのがプロシアの考え方でした。そして、自然科学重視の公教育というのが芽生え出すわけです。このときに、管理組織の機能というのは軍国教育です。戦後は、価値は何であつたかと言いますと、これは、大量生産と技術革新であつたと思います。もう一つは、イデオロギー、だつたと思います。この時に、公教育はきつちり制度化されることになる。その時に、管理組織機能はどのように働いたのかというのが、私は分かりません。ただ、この軍国主義時代の強烈なごりというものは、各地域とか各家庭とかそういうものに残っていて、これが極端な乖離を取ってきたのではないかと思っています。冷戦終結後、全体の価値が、産業を支えること以外に「自己実現」という言葉が、かなり大きな価値としてあがってきました。これが、全体と個の乖離を大きく動かしてきたのではないか、今後も動かしていくだろうと思います。

◎生活実感の欠如と学力低下

あまりにも受験に特化したためだと思つたのですが、私が経験した中にもいろいろあります。私どもの虎高の先生なんかは「全部、全

部勉強せいで」と。あれは本当によかつたと思いません。全部勉強しました。どこか一つ、「働け」を作つたらいいかん。科学というのは、実は、生活実感の体系化なんです。ニュートンの力学なんかでも、加速度というのは、力を質量で割つたものなんです。力が強ければ、大きい物が動く、力が弱くても軽い物だけなら動くという、生活実感を体系化したものなんです。

この間、研究室の整理中に、翠素・リン・カリの話で「○さん、N、P、Kってなんか知ってる？」って言うと、「NPKってなんかのグループ？」と、AKBと間違っているんですね。「じゃあ、植物の3大要素って知っていますか？」「え、植物？、それって水？」ちよつと待て、おまえは物質工学の学生なんやぞって、こんなことが日常茶飯事に起こっています。こんなことは試験に出さないから勉強しない。試験に出さない勉強しない。工学系なのに「ネジが反時計回りに緩む」とことを知らない。我々は、真空ポンプを使いますが、故障したら直さなければならぬ。「分解して直しましょう。」って言つたら、右の方へ真っ赤になってネジを締めているんですよ。「そんなことしたら、何してんの？」って言つたら「外してあるんです。」って、本当です。皆さんは、こんな生活実感と高尚な式を理解するのは、関係ないだろう、ねじを回したり、のこぎり使つたり、草むしりしている暇があつたら、どれだけ英単語を覚えさせなければならぬか、お母さん方、みんなそう思っている。この考えが、子どもの中に実感が育つのを阻害して学力低下を起している元凶なんです。

こうした無茶な教育をしていたら人格的に変な人間になるのは当然です。でも、大学入試に後れを取るのがずっと怖い。うちの子に社会に必要な人物になつてほしいなんて考えてもいません。いい大学にさえ入つてくれたらそれだけでいい。いい大学に入つたら一生、安泰みただいだし、日本を牽引していくのは、本当に偉い人によつてもらつたらいい。うちの息子がまさか偉いとは思っていません。東

大に入つてくれたら、それでいい。これが本音なんです。こういう本音を実現するために、やる勉強の方略とか、生活指導の方略というの、社会の再生とか、社会全体の活力に必要な方略とは、ずいぶん角度が変わってくるわけです。

◎無意味な学力のバベルの塔

日本で、東大なんか合格した日には、親戚がわいわい集まつてきて、あいつは偉い、このお母ちゃんも偉い、と大騒ぎしてきます。アメリカではこれは絶対ありません。アメリカの各大学は、学力だけの学生、大学のブランドに憧れて入学が自己目的化している学生を排除する。アメリカの「高等教育における理想の学生像」というのがあつて、その理想の学生像こそが国際競争力を維持しているという信念があるのです。ところが日本では、早熟受験のため、勉強というのは苦しむためにあるものだ、という考えしか持たなくなつてしまふ。勉強は楽しいなんて思わない。例えば、熱力学はきれいな自然の秩序なんです。これを改めて教えたつて、こんなものは試験のために学んだと。大学生になつてもその後遺症から一歩も抜け出せません。学力低下が起きているのは当たり前のことです。こうして、知的感情の立ち切れ、知的教養の立ち枯れ、意欲の立ち枯れ、プライドという枯れた根だけが残っているという状態が起るわけです。世界に類を見ない早熟教育というのは何をやっていくかという、中学入試というので生まれつきの適性を選別して統計的に何とかなる子を集めて、一流大学に送り出しているだけなんです。

だから、死んだ魚の目の若者を作り出して、人格形成の重要時期を、親のわがままで破壊してしまつていっているんです。小学生の時期にしかできない人格教育、形成がありますね。それを逃してしまつたらどうしようもない。しかし、どんな教育を受けても無毒化できる昇華機能を生まれつき備えた人がいる。どんな無茶苦茶されても大丈夫な人がいるから、受験産業もいつまでも目を覚まさない。ところが、無茶苦茶されて育つた人がいるという事実があります。そこが今、うやむやになつていますが、もう放つておけない時代が到来していると私は思っています。そういう中で、虎高高校は自然体、自然体というのは景色とか農村地帯がヒントになる。自然体になりますね。こうした生活実感が満杯ある虎高高校がいつまでも存続して行つて頂きたいと思つています。





スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の 指定を受け3年目に入りました。

(平成24年度から平成28年度まで5年間)



■本校のSSHとは

本校のSSH事業における研究開発課題は、『国際的な視野に立つ科学者・技術者と科学技術の発展を支えコントロールする市民の育成を行い、その実現のための教育プログラムの研究開発』です。

本校SSH事業の特徴は、全生徒(文系・理系とも)の科学的ならびに論理的な思考力を涵養することで、理系生徒には「国際的な視野に立つ科学者・技術者」としての資質を、文系生徒には「科学技術の発展を支えコントロールする市民」としての資質を育成します。

この事業は「高等学校における理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策についての研究を推進し、将来有為な科学技術系人材の育成」を目的としており、文部科学省および独立行政法人科学技術振興機構(略称)ST)の支援を受け、実施する事業です。

■「3つの力」と「2つの態度」 (3つの力)

探究力…探究力とは、知を活用しながら、知を創出する力のこと。疑問を見つけ、課題を設定し、解決方法を考案して、試行錯誤しながら行動して乗り越える力。

表現力…コミュニケーションの基本となる力で、自分の意思や情報を的確に発信する力。表現することは自分自身の学びを深めることでもある。

協働力…仲間と情報を共有し、議論し、役割を分担しながら、物事を進めていく力。自己と他者との対話は、生徒の意欲を喚起して、自律的に活動する態度が養われる。

(2つの態度)

主体的な態度…自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする態度のこと。「学ぶのは自分自身である」という自覚の上に成り立ち、「学びたい」という知的欲求に転換される態度。

科学的な態度…客観的にとらえ、論理的に分析・説明・予測していくこととする態度のこと。感性や直観の瑞々しさを尊重しながら、科学的に思考し判断できる態度。



互いの発表を評価します



人は成長しますが、この凝縮と拡散の過程が部活動や学校行事だけでなく、学習活動でも明確に実感できる機会にすること。

③資源のない日本が求める国際競争力のある人材育成を、国際競争力の中でも重要な柱とされる科学技術の振興を通して貢献する。

■事業内容

多くの事業を実施します。その内容は次のようなものです。(抜粋)

1. 『究理Ⅰ』(1年生)、
『究理Ⅱ』(2年生)、
『トランスサイエンス』(3年生)

『究理Ⅰ』では、『究理Ⅱ』の基礎となる力を付けるために、ミニ課題研究とサイエンスフィールドワークを行います。

『究理Ⅱ』においては、調べたい研究課題を決め、実験やデータの整理と考察、論文の作成、英語によるプレゼンテーションなどを行います。



昨年度の「究理Ⅱ」の様子

2. 大学との連携

「サマーセミナー」(理系:大阪大・滋賀医科大・滋賀県立大、文系:金沢大)を、2年生全員を対象に実施しています。また、「ウィンターセミナー」(長浜バイオ大)を1年生全員を対象に行っています。



サイエンスレクチャーの様子

3. 地域への発信

地域の小中学生を対象に、サイエンスレクチャーを行ったり、中学生向けの体験入学でも科学について触れられる機会を増やしています。地元で生息する絶滅危惧種の飼育研究を通じて、科学探究部の活性化と研究成果の地域への発信も行っています。

4. 電子黒板の活用

SSH事業では電子黒板のさらなる活用方法を研究しており、生徒のプレゼンテーション能力の育成もハード面からサポートしています。また、タブレットPCなどの利用で、生徒と教員の双方向から授業参加できる可能性も探ります。

これらの育成を通して次のような役割が果たせると考えています。

①高校の枠を越えた授業・学習内容への挑戦。

②地道な努力(凝縮)と能力を花開(拡散)する時期を繰り返しながら、

進路状況

● 現役合格延人数

| 種別 | 平成24年3月卒 | 平成25年3月卒 | 平成26年3月卒 | |
|-------|----------|----------|----------|-----|
| 卒業者数 | 197 | 196 | 195 | |
| 大学 | 国公立大学 | 90 | 89 | 83 |
| | 私立大学 | 397 | 410 | 455 |
| | 計 | 487 | 499 | 538 |
| 短大 | 公立短大 | 1 | 0 | 1 |
| | 私立短大 | 2 | 11 | 0 |
| 専修学校等 | 11 | 10 | 15 | |
| 就職 | 公務員等 | 3 | 1 | 0 |

● 大学合格状況

【国公立大学】合格延人数 ()内は過年度卒

| 大学名 | 平成24.3年 | 平成25.3年 | 平成26.3年 |
|-------|---------|---------|---------|
| 北海道大 | 1(0) | 0(0) | 0(0) |
| 東北大 | 0(0) | 0(0) | 1(0) |
| 富山大 | 3(1) | 2(0) | 5(1) |
| 金沢大 | 5(0) | 7(0) | 12(1) |
| 福井大 | 3(0) | 2(0) | 2(0) |
| 信州大 | 2(0) | 3(1) | 0(0) |
| 岐阜大 | 5(1) | 3(1) | 2(0) |
| 静岡大 | 1(0) | 4(0) | 8(2) |
| 名古屋大 | 4(0) | 1(0) | 2(0) |
| 名古屋工大 | 1(0) | 5(0) | 7(0) |
| 三重大 | 2(0) | 4(0) | 2(2) |
| 滋賀大 | 14(0) | 15(0) | 8(0) |
| 滋賀医大 | 1(0) | 0(0) | 5(0) |

| 大学名 | 平成24.3年 | 平成25.3年 | 平成26.3年 |
|-------|---------|---------|---------|
| 京都大 | 3(1) | 4(2) | 0(0) |
| 京都教育大 | 0(0) | 1(0) | 2(0) |
| 大阪大 | 2(0) | 2(0) | 2(2) |
| 大阪教育大 | 2(0) | 2(0) | 1(0) |
| 奈良女子大 | 0(0) | 1(0) | 0(0) |
| 神戸大 | 3(0) | 3(1) | 1(0) |
| 和歌山大 | 3(1) | 5(0) | 1(0) |
| 岡山大 | 1(0) | 3(0) | 1(0) |
| 広島大 | 5(0) | 4(1) | 2(0) |
| 鳥取大 | 4(3) | 1(0) | 1(0) |
| 香川大 | 2(0) | 1(0) | 0(0) |
| 九州大 | 0(0) | 0(0) | 1(0) |
| 国立大学計 | 72(7) | 79(6) | 74(9) |

| 大学名 | 平成24.3年 | 平成25.3年 | 平成26.3年 |
|-------|---------|---------|---------|
| 福井県立大 | 1(0) | 0(0) | 1(0) |
| 滋賀県立大 | 7(0) | 7(0) | 9(0) |
| 大阪市立大 | 3(0) | 0(0) | 3(0) |
| 大阪府立大 | 2(0) | 3(0) | 1(0) |
| 神戸市外大 | 1(0) | 0(0) | 0(0) |
| 高知県立大 | 0(0) | 1(0) | 1(0) |
| 県立広島大 | 1(1) | 2(0) | 0(0) |
| 公立大計 | 28(3) | 17(1) | 19(1) |
| 国公立大計 | 100(10) | 96(7) | 93(10) |

| 再掲 国立大医学部医学科 | 平成24.3年 | 平成25.3年 | 平成26.3年 |
|--------------|---------|---------|---------|
| 滋賀医大 | 1(0) | 0(0) | 1(0) |
| 医学科計 | 1(0) | 0(0) | 3(2) |

※括弧の都合上、全ての大学は掲載していません。

【私立大学】合格延人数 ()内は過年度卒

| 大学名 | 平成24.3年 | 平成25.3年 | 平成26.3年 |
|-------|---------|---------|---------|
| 明治大 | 1(0) | 2(0) | 1(1) |
| 慶応大 | 1(0) | 0(0) | 1(1) |
| 東京理科大 | 0(0) | 1(0) | 0(0) |
| 早稲田大 | 3(0) | 2(0) | 2(0) |
| 南山大 | 1(0) | 0(0) | 2(0) |
| 京都産大 | 23(1) | 10(1) | 10(2) |

| 大学名 | 平成24.3年 | 平成25.3年 | 平成26.3年 |
|-------|---------|---------|---------|
| 京都女子大 | 14(2) | 25(0) | 12(1) |
| 京都薬科大 | 1(0) | 9(1) | 3(2) |
| 同志社大 | 39(5) | 25(5) | 21(7) |
| 立命館大 | 80(4) | 60(1) | 86(5) |
| 龍谷大 | 71(5) | 79(2) | 96(5) |
| 関西大 | 10(3) | 8(0) | 11(2) |

| 大学名 | 平成24.3年 | 平成25.3年 | 平成26.3年 |
|-------|---------|---------|---------|
| 近畿大 | 16(0) | 18(0) | 28(8) |
| 関西学院大 | 9(0) | 20(0) | 4(1) |
| 私立医学科 | 0(0) | 1(1) | 3(3) |
| 私立大計 | 429(32) | 435(25) | 501(46) |

※括弧の都合上、全ての大学は掲載していません。

● 第66回生(平成26年3月卒)進学希望者数に対する合格率・進学率

| 進学希望者数 | 人数 | 合格率・進学率 | |
|--------|-----|---------|---------|
| A | 195 | 合格率 | B/A 92% |
| B | 179 | 進学率 | C/A 89% |
| C | 174 | 国公立大合格率 | D/A 43% |
| D | 83 | | |

平成26年度 職員人事異動(敬称略)

| 転入 | | 転出 | | 退職 | |
|-----------|-----------|--------------|-----------|----------|--|
| 吉井めぐみ(国語) | 森友紀(理科) | 西坊晴美(副校長として) | 上田月子(業務員) | 福永晴実(国語) | |
| 後藤大輔(理科) | 森彩香(英語) | | 菅原徳光(理科) | | |
| 中沙規子(社会) | 白杵朋美(国語) | | | | |
| 富岡真理子(英語) | 矢田志奈(数学) | | | | |
| 田瀬良和(社会) | 虎頭良裕(国語) | | | | |
| 堀嘉久美(事務長) | 河下太勇(教頭) | | | | |
| 丸野修蔵(社会) | 福永和真(理科) | | | | |
| 吉田増行(英語) | 糟淵孝男(英語) | | | | |
| 眞田正道(社会) | 横田明子(国語) | | | | |
| 衣菜栄治(事務長) | 長浜北星高校へ | | | | |
| | 八幡商業高校へ | | | | |
| | 長浜北高校へ | | | | |
| | 伊香高校へ | | | | |
| | 高島高校へ | | | | |
| | 河内高校へ | | | | |
| | 高島高校より | | | | |
| | 長浜土木事務所より | | | | |
| | 彦根翔陽高校より | | | | |
| | 彦根西高校より | | | | |
| | 米原高校より | | | | |
| | 米原高校より | | | | |
| | 新規採用 | | | | |
| | 新規採用 | | | | |
| | 臨時講師 | | | | |
| | 臨時講師 | | | | |
| | 臨時講師 | | | | |

「姉水文庫」、新設!

今年2月から、山中典士(旧22回)氏の寄贈を受け、旧制虎姫中学や虎姫高校の卒業生の方々の著作や関連本をおさめた「姉水文庫」を本校図書館内に設けています。

現在、松田正二(旧8回)氏、山田學(高4回)氏、斉藤徹(高19回)氏、森雅秀(高32回)氏、花戸貴司(高41回)氏の著作や関連本があります。

詳細は、本校ホームページをご覧ください。





三 角 点

(上位成績のみ)

■平成25年度分

【秋季総体】

- ・ソフトテニス部
男子団体 優勝 近畿インドア大会出場
女子個人 片桐・野瀬組ベスト16 近畿インドア大会出場
- ・水泳部
西島功祐 200M バタフライ 2位
100M バタフライ 3位
- ・アーチェリー部
女子団体 3位
- ・卓球部
女子団体 ベスト8
- ・バレーボール部
男子 ベスト8



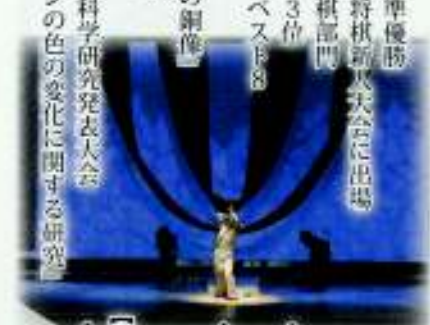
【文化部】

- ・囲碁将棋部
男子新人戦 寛 大樹 優勝(2年連続)
- 女子新人戦 村上祥代 準優勝

全国高文連将棋新大会に出場
近畿高総文祭将棋部門
寛 大樹 3位

演劇部
高総文祭「丘の銅像」
県3位 優秀校

科学探究部
滋賀県児童生徒科学探究発表大会
「アントシアニンの色の変化に関する研究」
最優秀賞



■平成26年度分

【春季総体】

- ・ソフトテニス部
男子個人 5位 藤森・伊吹組
男子団体 3位 近畿大会出場
- ・アーチェリー部
男子団体 3位 国友翔平 近畿大会出場
女子個人 3位 岸野彩花 近畿大会出場
- ・剣道部
女子団体 ベスト8 近畿大会出場
- ・卓球部
男子団体 ベスト8
男子ダブルス 森花澤組
ベスト16 近畿大会出場
- ・水泳部
400Mメドレーリレー
小川・石原・西島・中岡組
決勝5位 近畿大会出場
- 西島功祐 100M バタフライ
決勝3位 近畿大会出場
200M バタフライ
決勝5位 近畿大会出場
- 中岡佑也 50M 自由形
決勝7位 近畿大会出場
100M 自由形
決勝7位 近畿大会出場
- ・バレーボール部
男子 ベスト8
バスケットボール部
男子 ベスト8



【文化部】

- ・囲碁将棋部
女子 村上祥代
優勝(3連覇) 全国大会出場



平成25年度 姉水会決算報告(案)

自 平成25年 4月 1日
至 平成26年 3月31日

1 一般会計

| 収入の部 | 項目 | 金額 | 備考 |
|------|----------|-----------|-------------------------------|
| 収入の部 | 前年度繰越金 | 1,796,584 | (定期: 1,403,623円、普通: 392,961円) |
| | 入会金 | 780,000 | 高66日生 (4,000円×195人) |
| | 同窓会名簿売上 | 16,000 | 4,000円×4冊 |
| | 運営協力金 | 1,736,340 | 口数 924口、手数料差引額 |
| | 特別会計より繰入 | 200,000 | 運営資金不足のため |
| | 雑収入 | 10,324 | 利息(定期・普通)、総会祝儀 |
| | 合計 | 4,539,248 | |

| 支出の部 | 項目 | 金額 | 備考 |
|------|------------|-----------|--------------------------|
| 支出の部 | 通信費 | 1,395 | 郵便料、振込手数料 |
| | 旅費 | 80,560 | 東京姉水会 |
| | 会議費 | 90,716 | 理事会・総会等(永年勤続祝金・写真代等) |
| | 慶弔費 | 20,000 | 祝儀(東京姉水会・長浜姉水会) |
| | 姉水会館損害保険 | 36,750 | 損害保険料 |
| | 会報「姉水」発行経費 | 1,762,288 | 株式会社「サラト」に委託 |
| | 姉水会館光熱費 | 99,493 | ガス・電気・水道 |
| | 姉水会館修繕 | 40,950 | 排水つまりの修繕費 |
| | 姉水会館害虫駆除 | 3,323 | ダニ調査・害虫駆除剤 |
| | 「特別会計」へ繰入 | 585,000 | 高66回生入会金より (3,000円×195人) |
| | その他 | 5,250 | 校歌原稿のデータ化 |
| | 合計 | 2,725,725 | |

| | | |
|--------|-----------|-------------------------------|
| 次年度繰越金 | 1,813,523 | (定期: 1,403,903円、普通: 409,620円) |
|--------|-----------|-------------------------------|

2 特別会計

| 収入の部 | 項目 | 金額 | 備考 |
|------|------------|------------|---------------------------------|
| 収入の部 | 前年度繰越金 | 12,024,037 | (定期: 6,336,943円、普通: 5,687,094円) |
| | 一般会計より繰入 | 585,000 | 高66回生入会金より |
| | 雑収入 | 8,177 | 利息(定期: 7,281円、普通: 896円) |
| 合計 | 12,617,214 | | |

| 支出の部 | 項目 | 金額 | 備考 |
|------|------------|-----------|---------------------------|
| 支出の部 | 一般会計へ繰入 | 200,000 | 運営資金不足のため |
| | 空調設備工事費へ貸出 | 8,100,000 | 定期4,209,854円、普通3,890,146円 |
| | 電子黒板購入 | 1,027,272 | 1年生クラス増のため購入 |
| | 合計 | 9,327,272 | |

| | | |
|--------|-----------|---------------------------------|
| 次年度繰越金 | 3,289,942 | (定期: 2,134,370円、普通: 1,155,572円) |
|--------|-----------|---------------------------------|

平成25年度 運営協力金について

| | |
|------|------------|
| 振込金額 | 1,848,000円 |
| (口数) | 924口 |
| 手数料 | 111,660円 |
| 差引金額 | 1,736,340円 |

多くの会員の方からお振り込みいただき誠にありがとうございました。
H25年度運営協力金は、主に会報「姉水」発行経費に充てさせていただきました。
今年度も、皆様方のご協力をよろしくお願ひ致します。

「同窓会だより」の原稿募集について

多くの学年で、旧交を温め合うべく同窓会を開催されていることと思います。その様子を本紙の「日東第一だより」に掲載させていただきたく存じます。是非とも事務局まで原稿をお寄せ下さい。写真のみの掲載でも結構ですので、どうぞよろしくお願ひ致します。毎年、5月上旬が原稿メ切りになっております。